

鳥インフルエンザ情報(ヒトの症例):カンボジアの状況(更新)

2013年2月1日

カンボジア王国の保健省(MoH)は、2013年1月にH5N1型ウイルスが陽性であると確認された鳥インフルエンザの5人の新しいヒトの症例を報告しました。

これらの症例の詳細は、2013年1月9日発症のプノンペン(Phnom Penh)の8ヶ月の男児、1月11日発症のタケオ(Takeo)州の17才の女性、1月13日発症のコンボンスピー(Kampong Speu)州のKong Pisey地区の35才の男性、1月13日発症のコンボンスピー州Kong Pisey地区の17ヶ月の女児および1月15日発症のカンポット(Kampot)州Toeuk Chhou地区の9才の女児です。

全ての症例において、発熱、咳、その他ILI(インフルエンザ様疾患)を呈していました。1件の症例(8ヶ月の男児)は単に穏やかなILIを経験した後に回復しましたが、他の4件の症例は死亡例でした。検体は、国立公衆衛生研究所とカンボジアパスツール研究所によって検査されました。

初期証拠はヒト-ヒト感染を支持しておらず、また、4症例では病気にかかったり死亡した家禽との濃厚接触があったことが知られています。

保健省の迅速対応チーム(RRT)は、患者との濃厚接触者、5件の症例と何らかの疫学的つながりのある者を特定し、さらに必要に応じて初期の予防措置を講じるために、病院と共に現地に出向いています。さらに、鳥インフルエンザにかかることから如何にして身を守るかを家族に知らせるために、公衆衛生教育キャンペーンが村で行われています。チームは、被災地において、地元の保健センターでのインフルエンザ様疾患の増加やSARI(重症急性呼吸器感染症)の症例数の増加のきざしの記録を調べています。A/H5N1インフルエンザの濃厚接触者の間で、ILIのあるヒトの検査結果は、これまで、陰性でした。地元の保健センターと病院では、さらに2週間、ILIとSARIに対する強化監視が続けられます。健康教育の通達が、該当する地域に配布されました。世界保健機構は、これらの調査にあたり、保健省を積極的に支援していきます。

平成25年2月4日

滋賀県衛生科学センター
健康危機管理情報センター(仮訳)